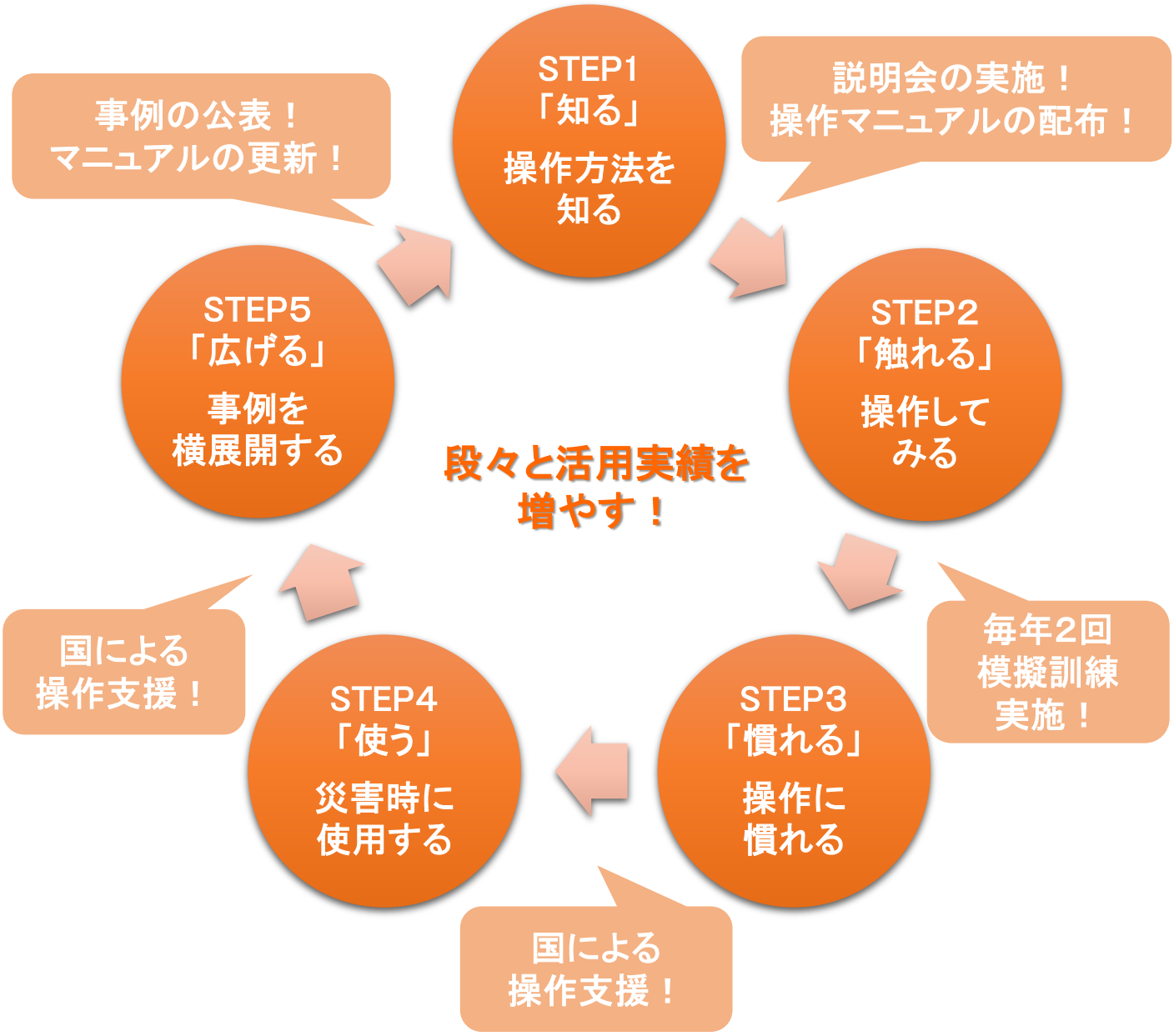
被害把握ツールを現場で活用していくための スケジュール案（被害登録・被害報告）

被害把握ツールの運用を令和8年度から開始する。
被害把握ツールは被害登録と被害報告の面で事務の効率化が期待される。
【被害登録】スマートフォン等により、現場で被災箇所の被害写真、位置情報、被害状況をクラウド上のデータベースに登録（被害額の簡易的な算定も可能）が可能
【被害報告】登録された被害情報を関係機関にリアルタイムで共有でき、都道府県や国へもデータベース上で報告が可能
現場が混乱することなく、被害把握ツールを浸透させ活用していくためには、「知る」「触れる」「慣れる」「使う」「広げる」のステップで取り組んでいくこととし、希望する都道府県・市町村から段々に活用実績を広げていき、災害復旧に係る事務の効率化を図っていきたい。



今後のスケジュール案

		①被害報告書 （事務取扱要綱に基づく）	②被害速報 （農水省から被害速報依頼時のみ）
令和8年度	4～5月	**STEP1「知る」** ・担当者会議での説明（本省→農政局、農政局→都道府県等、都道府県→市町村等）	**STEP1「知る」** ①と同じ
	～5月末	**STEP2「触れる」 STEP3「慣れる」** ・模擬訓練（都道府県・市町村向け、希望制、5/25～6/29）	**STEP2「触れる」 STEP3「慣れる」** ・模擬訓練（都道府県・市町村向け、希望制、6/15～19）
	6月～	**STEP4「使う」** ・各都道府県の活用予定時期の聞取り調査（5/25～6/29） （希望する都道府県で活用開始） ・災害時に活用（従来の方法を妨げない） ・MAFF-SATによる操作支援 ・改良等に関する意見の聞き取り	**STEP4「使う」** ・各都道府県の活用予定時期の聞取り調査（5/25～6/29） （希望する都道府県で活用開始） ・災害時に活用（従来の方法を妨げない） ・MAFF-SATによる操作支援 ・改良等に関する意見の聞き取り
	秋以降	**STEP2「触れる」 STEP3「慣れる」** ・模擬訓練（都道府県・市町村向け、希望制） ・MAFF-SATによる操作指導（必要に応じて）	**STEP2「触れる」 STEP3「慣れる」** ・模擬訓練（都道府県・市町村向け、希望制） ・MAFF-SATによる操作指導（必要に応じて）
	11～3月	**STEP5「広げる」** ・マニュアルの更新 ・活用事例の作成 ・MAFF-SAT研修 ・実施しなかった都道府県から聞き取り	**STEP5「広げる」** ・マニュアルの更新 ・活用事例の作成 ・MAFF-SAT研修

当面の間、
・ 活用希望の都道府県を募り、運用開始＋国からの操作支援
・ 活用希望に至っていない都道府県から事情の聞取り＋国からの操作支援
を行うことで、段階的に浸透を図る！

被害報告書・被害速報の作成・提出への活用について

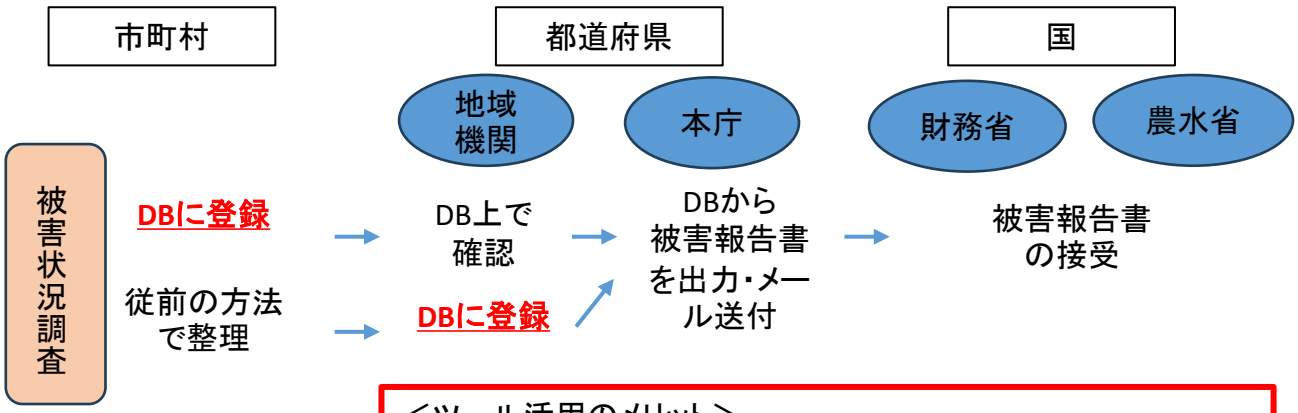
【目的】

被害把握ツールを活用することで、外業で被害状況を把握し、役場に戻ってから内業で被害報告書を作成する従来の方法から、外業のみで内業の被害報告書の作成・提出が可能となり、被害把握に関する業務負担軽減が期待できる。

また、被害把握ツールを大規模災害時に国への報告が求められる被害速報の報告へ活用することで、市町村・都道府県・地方農政局の事務作業の負担を軽減する。

＜被害報告書提出方法変更案＞　※事務取扱要綱に基づく

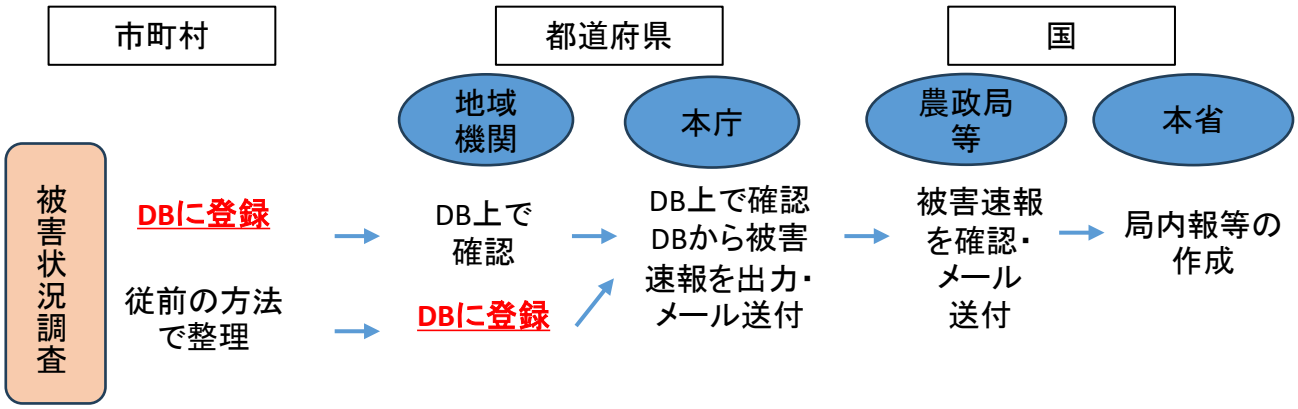
※システム操作に慣れるために、R8年度は従前の作成方法と併用可。



＜ツール活用のメリット＞
・転記、統合作業のミスや整合確認にかかる時間を短縮できる。

＜大規模災害時の被害速報提出方法変更案＞　※農水省から被害速報依頼時のみ

※システム操作に慣れるために、R8年度は従前の作成方法と併用可。



＜ツール活用のメリット＞
・転記、統合作業のミスや整合確認にかかる時間を短縮できる。
・各機関での集約作業が減るため、被害報告の締め切りを従来より延長できる。

被害把握ツール模擬訓練(第１回）手順

	ア　被害報告書 （事務取扱要綱に基づく）	イ　被害速報 （農水省から被害速報依頼時のみ）
① 被害 把握	**対象者**：市町村、（都道府県等） （被害把握を通常、都道府県等と連携して実施している場合は、通常時と同様、共同で実施する。） **概要**： ・「登録する被害サンプル例」のうち、農地１箇所、農業用施設３箇所を選び、被害情報や写真等をツールへ登録 ・登録した旨を都道府県へ報告 **手引き**：P3～15	６月15日(月)に本省から農政局を通じて、メールで依頼する（実際の大規模災害時と同様の流れ）。 メールにて、登録する被害サンプル内容を改めて提示する。 **対象者**：同左 **概要**： ６月15日(月)の本省からのメールに記載する内容に沿って、被害箇所のみを登録 **手引き**：P22～27
被害 状況 の 確認	**対象者**：都道府県 **概要**： ・訓練を実施した全ての市町村から報告を受け、システム上で被害の登録内容が閲覧できることを確認（修正が必要であれば市町村に指示） **手引き**：P16～19	**対象者**：同左 **概要**： ・市町村からの報告を受け、システム上で被害の登録内容が閲覧できることを確認（修正が必要であれば市町村に指示） **手引き**：P28～29
② 国へ の 報告	**対象者**：都道府県 **概要**： ・システム上で訓練で登録した都道府県内全ての箇所について、「報告有無」を「有」へ変更し、被害報告書をシステムから出力 ・被害報告書を農政局及び本省へ提出（通常の災害時と同様の宛先へ送付（ただし、財務局への送付は不要）） **手引き**：P20～21	**対象者**：都道府県 **概要**： ・システム上で「報告有無」を「有」へ変更し、被害速報をシステムから出力 ・被害速報を農政局へ提出（通常の災害時と同様の宛先へ送付。〆切は６月15日(月)のメールで提示する。） **手引き**：P30～32 **対象者**：農政局 **概要**： ・管内都道府県分の被害速報を確認・集約し、本省へ送付

※手引き：別添「被災時における被害把握ツール活用の手引き(案)」

各訓練完了後、アンケートへ回答をお願いします。（アンケート）

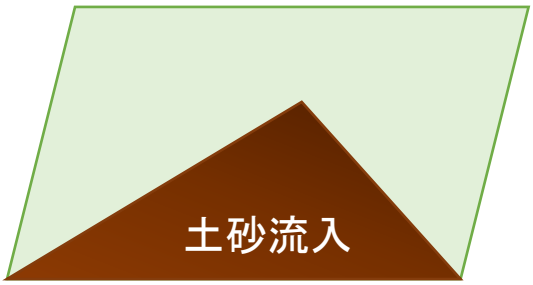
別紙　登録する被害サンプル例

・農地１箇所
・農業用施設は、「水路、農道、ため池、頭首工、揚水機、堤防、橋梁、農地保全施設、負担法施設、生活環境施設」のうち３箇所
の全４箇所について、以下の被害サンプルを登録してください。
※被害額を手動入力する場合で入力する被害額が定まらない場合は、「１カ所当たり被害額平均」をご参照ください。

＜農地の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	農地
細分	田
復旧工法	排土
箇所番号	訓練_〇〇町01
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	有（影響度：軽微）
応急対策の必要性	有
被害面積	0.3ha
計測事項	①排土延長(縦)20m ②排土延長(横)100m ③排土形状0.5 ④排土厚さ0.2m



＜水路の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	水路
細分	用水路
復旧工法	水路復旧＋ふとん篭
箇所番号	訓練_〇〇町02
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	有（影響度：中程度）
応急対策の必要性	有
計測事項	①復旧延長5.0m ②復旧高さ1.50m ③水路断面(BF規格)400㎜、 ④被災延長(奥行)0 ⑤現況法勾配1：1.2



水路の法面崩壊、ブロック積の傾き

＜農道の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	農道
細分	なし
復旧工法	その他
箇所番号	訓練_〇〇町03
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	地震

営農への影響	無
応急対策の必要性	無
計測事項	①延長10.0m ②高さ0.4m



クラック発生

別紙　登録する被害サンプル例

＜ため池の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	ため池
細分	なし
復旧工法	全面復旧(前刃金)
箇所番号	訓練_〇〇町04
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	台風

営農への影響	有(影響度:重大)
応急対策の必要性	有
計測事項	①堤長25m ②堤高7.2m



ため池の決壊

＜頭首工の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	頭首工
細分	なし
復旧工法	全面復旧
箇所番号	訓練_〇〇町05
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	有(影響度:重大)
応急対策の必要性	有
計測事項	①堤長18m ②高さ2.5m



頭首工の損壊

＜揚水機の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	揚水機
細分	なし
復旧工法	その他
箇所番号	訓練_〇〇町06
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	無
応急対策の必要性	無
計測事項	①延長0m ②高さ0.8m （大雨による電気設備が0.8mの高さまで浸水した想定で被害額を入力してください。）



別紙　登録する被害サンプル例

＜堤防の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	堤防
細分	なし
復旧工法	全面復旧
箇所番号	訓練_〇〇町07
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	地震

営農への影響	有（影響度：軽微）
応急対策の必要性	無
計測事項	①延長8.0m （※地震により堤防が0.1m浮上した想定で被害額を入力してください。）



＜橋梁の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	橋梁
細分	なし
復旧工法	全面復旧
箇所番号	訓練_〇〇町08
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	有（影響度：重大）
応急対策の必要性	有
計測事項	①延長25.0m （※大雨により有効幅員3.5mの橋梁が流され、全延長を復旧する想定で被害額を入力してください。）



＜農地法全施設の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	農地保全施設
細分	なし
復旧工法	その他
箇所番号	訓練_〇〇町09
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	地すべり

営農への影響	有(影響度:軽微)
応急対策の必要性	有
計測事項	①延長5m ②高さ15m



法枠のずれ

別紙　登録する被害サンプル例

＜負担法施設の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	負担法施設
細分	海岸保全施設
復旧工法	その他
箇所番号	訓練_〇〇町10
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	地震

営農への影響	有（影響度：軽微）
応急対策の必要性	無
計測事項	①延長8.0m （※地震により堤防が0.1m浮上した想定で被害額を入力してください。）



堤防転落

＜生活環境施設の場合＞

所在地	任意の地点
工種区分	生活環境施設
細分	集落排水施設
復旧工法	その他
箇所番号	訓練_〇〇町11
被災日	令和8年4月1日
災害の種類	大雨

営農への影響	無
応急対策の必要性	有
計測事項	①延長0m ②高さ2.4m （※大雨により電気設備が2.4mの高さまで浸水した想定で被害額を入力してください。）

